MEIKAI UNIVERSITY

URAYASU CAMPUS | ALUMNI ASSOCIATION

vol.23
Dec.2017

明海大学
浦安キャンパス
同窓会報

SPECIAL ISSUE

明海大学浦安キャンパス同窓会
25周年記念式典祝賀会

MEIKAIブランディングサポートプロジェクト
～大学創立50周年に向けて～

キャンパス施設ツアー
～Touring New Facilities～

同窓会Facebookページ
https://www.facebook.com/Meikai.dosokai

同窓会LINE@アカウント
https://page.line.me/meikai_dosokai

CONTENTS 01

SPECIAL ISSUE

明海大学浦安キャンパス同窓会

25周年記念式典＆祝賀会

2017年7月23日（日）、同窓会設立25周年を記念し、浦安ブライトンホテル東京ベイにおいて「明海大学浦安キャンパス同窓会25周年記念式典＆記念祝賀会」が開催された。会場には過去の卒業アルバムや当時の大学パンフレットなどが揃えられ、参加者はそれらを手にとり眺めつつ、在学中の思い出や卒業後の日々、同窓会活動への思いなど式典前から様々な話に花を咲かせた。

同窓会の新たな決意

午前11時、野津友厚同窓会副会長による開会の辞の後、北原淳同窓会会長による式辞をもって式典がスタート。

続いて宮田淳理事長、安井利一学長からそれぞれ『卒業生の中から、学長や教授として大学に帰ってくる人材が育っていることは、将来に希望が持てる喜ばしい出来事』『浦安と坂戸キャンパスを合わせて、3万5千人を超える卒業生はまさに大学の宝。その卒業生の交流を担い、相互にビジネスの活用を広め、大学にフィードバックをしてくれる同窓会活動は、大学にとって不可欠の存在』との御祝辞を頂いた。

さらにこの祝辞をうけるように、当日参加された法人役員をはじめ、歯学部同窓会、教育後援会、大学教職員などの来賓の紹介も行われ、在学当時、授業や学生生活でお世話になった恩師を前に、同窓会メンバーも学生時代に帰ったような面持ちに。

その後、北原会長が「同窓会の誕生～変遷」を過去～現在の同窓会報バックナンバーを交えつつ紹介。同窓会立ち上げ当時の苦労を語りつつも『第一期卒業生である自分たちはすべてゼロからのスタートと思っていたがそうではなかった。歯学部の先輩方がいらっしゃった』と、本式典に参加された歯

宮田淳理事長

学部同窓会の中村睦夫会長、古川隆彦副会長に、往時の力添えへの感謝の意を伝えた。

続いて平松健太郎同窓会副会長が、同窓会の今後の指針となる「明海大学同窓会活動方針（MEIKAIブランディングサポート）」についてプレゼンテーションを行った。

「大学創立50周年に向けて」という大きなテーマに則り、２０１２年着想の「ビジョン２０１７」を「M.Aビジョン（MEIKAI Alumni Association Vision）」と名を改め、これを恒久的な同窓会の活動ビジョンとすること、ならびにその具体的アクションプランの説明があった。

「入学を勧めたい大学」「自分の子どもを入学させたい大学」という目標に向け、明海大学の魅力を発信するための方策が発表された。

同活動方針書が北原会長・平松副会長から宮田理事長・安井学長に手渡された後、平松副会長による閉会の辞に続いて参加者

全員での記念撮影を終え、式典は滞りなく終了した。

25年を経て広がりゆくMEIKAIファミリーの輪

式典終了後、同会場に隣接してセッティングされた祝賀会会場には、式典に参加出来なかった方々も続々と加わり、総勢１２０人近い明海大学関係者が会した。

賑やかに旧交を暖めつつ、時に真剣に未来のプロジェクトについての話なども飛び交う、明海大学浦安キャンパス同窓会ならではの雰囲気のなか、盛大に鏡割りから祝賀会がスタート。

その後、来賓の紹介などが行われる中、注目を集めたのが２０２０年東京オリンピックセーリング種目（ヨット）４７０級の特別強化選手に選出された本学職員の林優季さんと西代周さんだ。特に林さんは今年３月に本学経済学部を卒業し、在籍中はヨット部で活躍。大学の知名度アップにスポーツ界での活躍は欠かせないが、オリンピック選手の輩出という、大きな夢がかなり現実味を帯びてきているのである。

一方、夢プロジェクト（※）で昨年度は海外コンサート（台湾）、そして今年度、東北被災地の演奏ツアーを行う吹奏楽部は、一段と磨きがかかった演奏で、会場のボルテージをクライマックスに。部のテーマ曲となっている「勇気１００％」は、会場のアンコールにも応えて２回披露。明るくアクティブな同曲のイメージは、そのまま同窓会や大学の未来を指し示しているようだった。

宴もたけなわとなった祝賀会の最後には、参加者が全員で明海大学学歌「よろこび」を高らかに斉唱。3年後、２０２０年の大学創立50周年に向け、まさに同曲の歌詞にもある「私達にできる何かを」という思いを関係者全員が新たにした会となった。

※夢プロジェクト：学生の夢の実現に向けて、同窓会が上限100万円を援助し、応援・サポートを行う企画

MEIKAIブランディングサポートプロジェクト

― 大学創立50周年に向けて ―

VISION

M.Aビジョン（MEIKAI Alumni Association Vision）

明海大学は …
「入学を勧めたい大学」

明海大学は …
「自分の子どもを
入学させたい大学」

そんな大学になって欲しい!!

～この願いの実現は、同窓生共通の思い～
では、どんな大学が望まれているのか？

①就職に強い ②夢がある ③特色がある
建学の精神（社会性・創造性・合理性）に
基づく人間力の強化と関連する。

ACTION

夢プロジェクトを起点にしたブランディング構想図

「夢プロジェクト」の範囲を広げ、大学のブランディングをサポートする2つの機能

学内展開（大学主導）
- 新企画 EX.学生ワークショップ
- 各学部の取組 ⇔ 連動
- 学園祭
- オープンキャンパス

〈他〉
・ソーシャル施設の運用
・ペイドメディアの活用

①トピックメイキング機能
夢プロジェクト（同窓会主導）
- ヨット五輪
- 支部企画
- 個人企画 同窓生・学生・教員対象
- 現行 夢プロジェクト

〈他〉
・就職関連

②プロモーション機能
夢プロジェクト（同窓会主導）
- PR管理業務 ※アウトソーシングによって
- メディアバイイング ※代理店の活用

一連の取組を起点に
タッチポイントを
向上させる為の広げる取組

校外へプロモーション → ビジョン達成！ Re branding

- **M.Aビジョン**（MEIKAI Alumni Association Vision）
「ビジョン2017」を恒久的な同窓生の思いと捉え、普遍的な活動方針とする。
- **私たちは明海大学です**
日々の生活の中で、このキャッチコピーを意識し続けるキャンペーン。
⇒ 明海ファミリー
- **トピックメイキング**
外部に向けた「話題作り」に対し、「企画面」や「予算面」の積極的サポート。
※サポーターやビジネス交流会参加などのヒューマンリソースを活用。

予算とリソースの投下

1970	1992	2007	2009	2012	2016	2017	2020
明海大学の前身・城西歯科大学開学	浦安キャンパス同窓会発足	15周年 ●式典	同窓生意識調査実施	ビジョン2017		25周年 ●式典	大学50周年

POINT OF VIEW

同窓会・会長／副会長に聞く

同窓会のポテンシャルで大学を力強く牽引する

明海大学浦安キャンパス同窓会
会長 北原 淳
×
副会長 平松 健太郎

一般に同窓会というと、大学時代を懐かしむ人々の組織…といったイメージがある。特に歴史が古くて規模の大きい大学ほど、この傾向が強いように思われる。しかし、明海大学は間もなく創立50年の若い大学で、規模もいわゆるマンモス大学ではない。そこで生まれた同窓会には、もっともっと別に大切な役割があるのではないか…。

第一期の卒業生が、ゼロからスタートさせた明海大学浦安キャンパス同窓会では、このような自問自答を繰り返し、母校を応援するユニークな企画を次々に打ち出してきた。これらの活動を通じて、最初は社会人一年生だった同窓会メンバーも、25周年を迎えた今では三万人に迫り、それぞれの業界でキーパーソンとなる大人の集団、言い換えれば各界のプロの集まりに成長した。

同窓会の目的に、「母校をサポート」という言葉を使っているが、実は大学とは対等な関係で、むしろ「母校を牽引」することが同窓会の役割と思っている。母校の価値は、イコール卒業生の価値でもある。だから親として大学を見たときに、自信を持って「自分の子どもを入学させたい」「入学を勧めたい」と言いたいのだが、現実はまだそうなっていない。それは母校に魅力がないわけではなく、その良さが十分知られていないからではないか…と考えた。

こうしてビジネス交流会や夢プロジェクトなど活性化に努めて25年経ったところで、次の25年を展望したとき、今まで増やしてきたさまざまなコンテンツを世の中に知らしめる時期に至ったと考え、この「ブランディングサポートプロジェクト」が生まれたのである。

幸い、三万人近い卒業生の中には、マーケティングやマスコミなど、このプロジェクトを支えるに足る人材が豊富にいる。いろいろなメディアを通じて、明海大学のさまざまなコンテンツをアウトプットしていくことで、大学の存在感をアピールできる。メディアひとつをとっても、親の世代はフェイスブックだが、受験生はラインやインスタが主流になっている。このような社会の変化にも素早く対応できるのが、若い同窓会ならではの柔軟性である。

MEIKAI UNIVERSITY URAYASU Campus

キャンパス施設ツアー
—Touring New Facilities —

今日の教育の重要なキーワードである「アクティブ・ラーニング（＊）」のサポート環境充実に向け、いま学内ではさまざまな施設が続々と新設・リニューアルされています。
今回はホスピタリティ・ツーリズム学部在学の４年生で、オープンキャンパスでは学内ツアーの案内役もつとめる城前さんに、浦安キャンパスの新しい施設をナビゲートしてもらいました。

＊＝一方的な講義形式でなく、学修者側の能動的かつ主体的な学修参加を重視した教育／学習法

ナビゲーター● 城前綾乃（じょうまえ あやの）　ホスピタリティ・ツーリズム学科４年

明海ラーニングコモンズ MLC（Meikai Learning Commons）

メディアセンター（図書館）内に新たにオープンした多目的の共有スペース。広々としたフラットな空間は、使用目的ごとに緩やかにエリア分類されつつも、壁などで完全に区切ってしまうことのないオープンなコミュニケーションスペースとなっています。
PC ブースや授業動画・オンライン教材を配信できる講義室なども併設し、学生の自発的な学習意欲・知的好奇心を大いに刺激する教育支援空間となっています。

ラウンジスペースは、トピックごとの書架と可動式の椅子・テーブルが並び、開放感あふれるスペース。課題や発表の準備、ゼミやグループワークの打ち合わせなどさまざまな用途に使用できます。

ラウンジの一角には畳敷きの和室スペースも。ちょっとした息抜きはもちろん、話し合いが煮詰まった時に場所をガラッと変えると、また新たなアイデアが湧いてくるかも。

３台のプロジェクターによる３画面表示も可能なワイドな投影設備を備えたプレゼンテーションスペースは、プレゼンや学習成果の発表を行うことのできるエリアです。

城前さんのオススメpoint
- 会話OKなので友達と調べものや話し合いもでき、居心地も◎
- 書籍紹介スペースではオススメ＆話題の本をチェックできます

2206大講義室はAV設備の入替えも含め大リニューアル

明海複言語・複文化教育コモンズ
MPPEC（Meikai Plurilingual and Pluricultural Education Commons）

明海大学での言語教育の基本理念である「複言語・複文化主義」を生きた形で実践する場として設置されました。日·英·中、各言語ごとの「ゾーン」と呼ばれるブースと共用多目的ゾーン、それらを結ぶ Roji（路地）で構成され、学内にいながらにして、生きた異文化交流、外国語学修を可能とした支援スペースです。

講義棟１Fサウス学生ホールもこんなに綺麗に

城前さんのオススメpoint
- ネイティブの先生とゲーム等を楽しみながら日常会話を学べます
- 英検資格取得のための面接対策サポートもバッチリ

CONTENTS 04

ALUMNI MEETING

同窓会パーティー

明海祭初日の11月４日（土）、恒例となっている「明海大学浦安キャンパス同窓会パーティー」が、今年も大学構内のレストラン『ニューマリンズ』にて開催された。このパーティーは同窓会の総会でもあるので、297名を超える参加者があり賑やかな歓談風景が繰り広げられた。

パーティーには家族も参加できるので、最初の卒業生でも50歳に満たない若い同窓会だけあって、会場で目立ったのは元気な子どもたち。中には幼児や乳児の姿も見られた。

司会を平松健太郎同窓会副会長が務め、冒頭で北原淳同窓会会長は「それぞれの道で活躍されている皆さんが一堂に会する機会でもあるので、異業種交流の意味も含めて、大いに自己アピールして交流を深めてください」と挨拶。

どこのテーブルも話が盛り上がっていたのだが、ひときわ賑やかなテーブルがあった。なんと20年ぶりにマレーシアから参加した同窓生（留学生）が２人も揃ったとのこと。現地の日系企業に勤める１人が、日本出張のタイミングとパーティーの日程が合うことを確認し、同じマレーシアの同窓生を誘って参加したのだとか。まさに、異業種交流どころか国際交流の場ともなっていた。

同窓会は現役の学生を応援するのも役割のひとつ。そこで参加者には学生の模擬店で使えるチケットが配布されていた。このチケット、パーティー後にキャンパスで使うのかと思いきや、なんと会場に学生たちが出張販売に訪れる…という趣向。学生たちはグループごとに焼き鳥やフランクフルトを抱え、自分たちサークルのアピールも交え、大声で販売に精を出していた。

出席者

【副学長】高野敬三
【外国語学部】遊佐昇・佐々木文彦
柳澤好昭・小林裕子・河村昌子・神崎龍志
瀧田健介・小川唯・内藤貴子・佐藤賢
【経済学部】下田直樹・廣部恒忠・岡村龍輝
中澤栄一・藤野裕
【不動産学部】齋藤千尋・山本卓
【ホスピタリティ・ツーリズム学部】中井延美
【複言語・複文化教育センター】山岸宏明

CONTENTS 05

2017夢プロジェクト

審査会&報告会

明海祭初日の11月4日（土）、2201講義室にて「夢プロジェクト審査会&報告会」が開催された。夢プロジェクト（夢プロ）は学生の夢の実現に向けて同窓会が上限100万円を援助し、応援・サポートを行う企画。今年は3企画がノミネートされた。

審査に先立ち、昨年度夢プロ採用となった吹奏楽部による「東北演奏ツアー」の報告会が行われた。東日本大震災の被災地に音楽で元気や勇気を届けたい…というコンセプトのもと、演奏の練習はもとより、ツアールートやスケジュール、訪問地の選定、交通や宿泊の手配、そしてポスターやチラシの準備に至るまで、すべてを学生自らがこなした。老人ホームやこども園、ショッピングセンターなどで演奏し、最終日は津波で大きな被害を受けた釜石の旅館「宝来館」へ。津波に流され九死に一生を得た女将から当時の話を聞き、最後は目の前の根浜海岸で、未だ多くの犠牲者が眠る海に向かい、鎮魂の演奏でツアーを終えた。部長の松山桃子さん（英米語学科3年）は「この思いを後輩たちに語り継ぐことも大切な役割だと思っています」と語った。

続いて今年度企画の審査へ。トップバッターは外国語学部・田邉和也さんと小井田茉美さんによる語学学校作りプロジェクト。現在、田邉さんたちが運営する「憩塾こもれび」を、語学学校にまで発展させたい…というアイデア。今はシェアスペースを利用しており制約が多いことから、自由に使える活動拠点を確保したいとのこと。すでに塾を運営している実績をベースに、語学学校作りという大きな夢を力強くアピールした。

次に登壇したのは、ホスピタリティ・ツーリズム学部の秦絵莉香さん、花香聡美さんたちによる、スポーツを通して故郷を活性化したいという「スポーツの力」プロジェクト。自身の出身校（大分県）が統廃合されてしまう現実を前に、意気消沈しがちな後輩や町の人たちに、オリンピックで活躍するアスリートとの交流を通して、世界に目を向け明るい未来を見据えて貰うという企画。

最後は、不動産学部・齋藤俊さんと征矢尊紀さんによる「リマッチ～人と人とのつながり～」プロジェクト。これは、日本で主流の会社名を頼りにした不動産取引に代え、欧米流の人物本位のエージェント制を取り入れようという試み。まずは利用者とエージェントをつなげる、マッチングサイトをweb上に構築しようというものだ。

いずれ劣らぬ熱心なプレゼンテーションが繰り広げられ、審査メンバーからも鋭い質問が飛び交い、会場は大いに盛り上がった。

厳正な審査の結果、今回は「スポーツの力」が夢プロジェクトに採用。地方活性という大きな課題に挑むメンバーを同窓会もサポートしていく。

CONTENTS 06

CASE STUDY

ビジネス交流会
コラボレーション事例《番外編》

同窓会 × プロボクサー

今回はビジネス交流会事例《番外編》として、明海大OBでプロボクサーという異色の同窓生の現在の活動と、大学・交流会について聞いた。

プロボクサー・日本フライ級1位
長嶺 克則（ながみね・かつのり）
2013年度 不動産学科卒業

大学に行っていなければプロボクサーにはなっていなかった

幼少からボクサーへの憧れがあり、高校の時に部活感覚でジム通いを始め、「プロテスト合格」を目標にした。

17歳で合格したが「生半可な気持ちではできない」とプロデビューは全く考えなかった。その後は、ボクシングとは付かず離れず程度の距離感だったという。

大学進学後すぐ、3・11の東日本大震災を目の当たりにし、「もし今自分が死んだら、何か生きた証が残るだろうか？」という、焦りにも似た感情が湧き、必然的に「ボクシングに本気になる」という答えに至った。

大学2年の時、ついにプロデビューを果たすと翌年新人王を獲得、その後二度の網膜剥離による離脱を乗り越え、2017年2月に国内ランキング1位となり、日本タイトルマッチ、そしてその先への道筋が一気に見えて来た。

「自分の未来としっかり向き合う時間と環境が得られる大学生という期間は本当に貴重だった」と語る。

タイトル挑戦が現実味を帯びると、週5日フルタイムで仕事をしながらの練習活動に限界を感じ、本気で世界を目指す体制作りを考えた。何かきっかけになればと、大学時代の恩師へ相談したところ、北原淳同窓会会長を紹介され、その勧めでビジネス交流会へ参加。陸上競技部の練習への参加が決まり、現在は毎週、大学のトラックで充実したラントレーニングを行っている。

また、交流会参加をきっかけに、その後の試合には大学関係者やOB・OGが応援に駆けつけてくれるようにもなったという。

交流会では普段会うことのない職種・世代のOB・OGと触れ合い、刺激を受けたというが、そうしたこと以上に感じたのは、大学と自身の関係・繋がりの再発見だという。

卒業後、各々の道を歩み忙しくしている大学時代の友人達が、今も自身の試合がきっかけで集まることと、同窓会・ビジネス交流会というもののあり方に、形は違えどベースに同じものを感じたという。そこに共通するのは、同じ境遇で学び過ごしたという、他で決して得ることのできない財産＝繋がりである。

今後プロボクサーとして一層の結果を出した暁には、メディア等へ積極的に打って出ていき、さまざまな機会・形で大学や同窓会とも有益な交流をし、恩返しをしたいと考えていると語る。「見ている人を楽しませるチャンピオンになるので注目してください。スポンサー…とは言いませんが各種サポートなど絶賛受付中です（笑）来年3月3日（予定）のタイトルマッチ見に来て下さい！」

■長嶺克則へのコンタクトはこちらから。2018年3月3日（予定）のタイトルマッチなど最新情報も更新中。https://twitter.com/katsu_nori0_

CONTENTS 07

支部レポート

経済学科支部

産学連携プロジェクトの取り組み

代表　鮫島伸一

経済学科支部設立から７年。本年度は、同窓会本部の要請もあり、大学PRにつながる内容を中心に活動を行って参りました。産学連携プロジェクトとして、大学側に新たに新設された、経済学科ゼミ連合と協力し、大学と卒業生の企業とをつなぎ、さまざまなイベントを実施しました。学生の社会経験も含めて、明海大学経済学科を世の中にもっと知らしめるという意味でも、意義深い活動でした。

10周年を見据えて、益々、精力的に活動していきたいと考えています。今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い致します！

緑風会（不動産学部支部）

支部の垣根を越えて交流しましょう！

代表　小畑昌也

緑風会では、“交流の場”としてのパーティーや名刺交換会、“学びの場”としての緑風塾セミナーや不動産無料相談会など、毎年さまざまなイベントを開催しています。会員の皆さまからのご要望に応え、７月には原宿の南国酒家でもセミナー＆交流会を実施しました。卒業生であれば、この会場にピンときた方もいるかと思います。

緑風会のイベントは、他学部の卒業生でもご参加いただけるものばかりです。支部会報R.E.A News特集やホームページに、和やかな会場の雰囲気や参加者からのメッセージを掲載しましたので、ご覧になってみてください。

同窓生同士のコミュニティの輪を広げていきましょう。皆さまのご来場を執行部一同、心よりお待ちしております！

緑風会ＨＰ
http://www.meikai-rea.jp/　『明海 緑風会』で検索

明翔会（ホスピタリティ・ツーリズム学部支部）

Facebookで情報発信しています

代表　鈴木　香

明翔会は今年度より新規役員とともに新しいスタートを切りました！

毎年恒例、２月の同窓会パーティーは、子ども連れでの参加者も増え、とても賑やかなパーティーとなっていますがこれまで以上に楽しい集まりにしていきますので、皆さま奮ってご参加ください。今年度は2018年２月３日（土）19時@銀座での開催です。ご期待ください。

また、新規事業としてFacebookを使った卒業生へのインタビューや、大学の動向なども定期的に発信していますので是非ご確認ください。創立10周年を迎えたホスピタリティ・ツーリズム学部と明翔会からますます目が離せません！

日本語学科支部

ご意見募集中！

代表　早坂直記

前回は、浦安を飛び出して、お台場にてパーティーを行いましたが、いかがでしたか？　今年度も、同窓会パーティーを行う予定なので、連絡をお待ちください。

さて、今年度から役員が新しくなりました。今まで以上に同窓会企画を盛り上げるべく、いろいろと考えを出している最中ですので、何かご意見・ご提案があれば、ぜひご連絡ください。

日本語学科の同窓会も発足して時間が経ち、同窓生も増えております。同窓会として、今後の発展のために、卒業生同士の情報交換や、各業界のネットワークづくりの強化なども手伝えたらと考えています。更には、就職・転職などにもつなげていければと思いますので、ご協力お願い致します。

ご意見・ご提案は、nihongo.meikai@gmail.comまで。

明英（英米語学科支部）

「来てよかった」と思っていただけるように

代表　川部　翔

明英では同窓生が集まる事業が２つあります。ひとつは夏に行っている懇親パーティーです。今年度はパーティーに先立ち、元明海大学教授の東山安子先生より、『職場でのノンバーバルコミュニケーション』というテーマでご講演をいただきました。大学を卒業したばかりの同窓生も７人参加され、懇談の時間もとても盛り上がりました。

もうひとつは、冬に行っている教育セミナーです。今までは、現役の教員を対象に実施していましたが、今年度からは、より多くの方に参加していただきたいという思いから、全ての会員の皆様にお声掛けすることにしました。今年度は同窓生によるリーダーシップに関するセミナーです。ぜひご参加ください。

中国語学科支部

今年の懇親会は２月18日

代表　川島信一

今年度もオープンキャンパスへの役員派遣、HSK補助と懇親会の３つの事業を行っております。

毎年旧正月の時期に行う懇親会ですが、今年度は2月18日（日）12時30分からに決まりました。

卒業生同士のコミュニケーションにお役立てください。詳細はハガキにてご案内いたします。

CONTENTS 08

MESSAGE
恩師からのたより

日本語学科教授　佐々木文彦

30歳で最年少教員として明海大学外国語学部日本語学科に就職し、来年還暦を迎えます。昨年度から学科主任も仰せつかっています。「日本語学科の生き字引」などと言われたこともありますが、細かいことはすっかり忘れてしまっていたりする、落丁だらけの「字引」です。長くいるだけが取り柄のようにも思いますが、学科の全卒業生と同じ教室にいた経験があるという思いはわたしにとって何にも代えがたい宝物です。

「明海の卒業生」という言葉を見ると、海外の短期・長期留学の引率で一緒に旅をした学生の好奇心旺盛な顔つき、卒論ゼミ学生の研究に悩む姿、教育実習の研究授業をする学生の普段とは違う大人っぽい眼差し、卒業式を迎えた晴れ晴れとした表情など、たくさんの顔が目に浮かびます。昔は「佐々木ゼミは酒飲みゼミ呼ばわりされている」と女子学生に苦情を言われたこともありました。最近の学生はあまりお酒を飲まないのですが、今年の3年生ゼミの学生が作ってくれたLINEグループ名は「佐々木先生とゼミコンパ」というものなので、まあ、相変わらずと言ったところなのでしょう。

さて、本学科は世に優秀な日本語教師を送り出すことを目的に設立され、30年間に渡って教育研究活動を続けてきました。本格的な日本語教員養成課程としてのカリキュラムをもち、多くの海外協定校と交流し、スピーチコンテストを主催し、近年では国内の小中学校に通う児童生徒に対する日本語支援活動などに取り組んでいます。

学科が創立された1988年当時、海外の日本語学習者数は約73万人でしたが、2015年には約365万人に増えました（国際交流基金調査）。日本語教育の環境も、世界の中の日本の立場も変化しています。入学してくる学生たちの属性や志望も変わってきていますので、学科運営もそれに応じて変容を続けています。

来年の1月に『広辞苑』第7版が出版されます。わたしも、少しですが新しく加える語を選定し、執筆もしました。言葉の意味を記述するのに苦心していると、まさに言葉は生き物だという思いを新たにします。人の考え方や感じ方や行動の仕方が変わればそれを表現する言葉が変化するのは当然ですね。だから辞書には改訂が必要なのです。

卒業生の皆さんの進路は日本語教師ではない人の方がずっとずっと多いのですが、「日本を世界に発信する」という思いは多くの皆さんが共有してくれていると信じています。日本語について日本文化について、とことん追求した日々が皆さんにはあり、言葉を深く考えることの難しさと楽しさを皆さんは知っています。皆さんの未来にはどんな言葉が待ち受けているでしょうか。これからも皆さん一人一人の心の中にある「字引」を大切にしてほしいと願っています。浦安でいつでも待ってます。

sasaki-f@meikai.ac.jp

CONTENTS 09

REPORT
会計

セキュリティの関係上、ホームページには公開致しません。

CONTENTS 10

REPORT

明海祭団体表彰

明海祭で展示発表を行った団体の中から優秀団体を決める「明海祭団体表彰」の発表＆表彰式が、明海祭最終日の11月5日に行われた。今年は茶道部が最優秀賞、吹奏楽部が優秀賞、そして同窓会賞には経済学部ゼミ連合が選ばれた。

茶道部は、昨年、屋外で行われた茶道体験が評価され同窓会賞を受賞しているが、今年は美女と野獣をテーマに和と洋を融合させた体験展示が注目を集めた。部長の小尾有加さん（ＨＴ学科３年）は「流行の映画のイメージを取り入れて、幅広い層にアピールできました」とのこと。

吹奏楽部は、夢プロジェクトで台湾や東北ツアーを成功させてきた勢いに乗って、パワフルな演奏で会場を盛り上げていた。部長の松山桃子さん（英米語学科３年）は「演奏はもちろん、部で出店した“たません”の販売も好調でした」と受賞の喜びを語ってくれた。

また経済学部ゼミ連合は、ゼミの魅力を多くの方々に知ってもらおうと、ゼミ主催教授の研究テーマ等を一覧できる「ポスターセッション」を実施。会長の片山剛貴さん（経済学科３年）は「ゼミ選択の参考になれば…と他に先駆けて取り組みました」と喜びのコメントを寄せてくれた。

CONTENTS 12

TOPICS

コミュニティサポート事業

【明海大ＯＢウィナーズ】参加人数：21人

浦安市春季市民体育大会ソフトボール競技大会へ参加。

【北村オヤジの会】参加人数：16人

2000～2001年度卒業生からなる、BBQ同好会。毎年4月29日にBBQを浦安市総合公園にて行なっております。

CONTENTS 11

CLUB

女子硬式庭球部

今年度は昨年からの４人の部員に加えて、テニス経験者の１年生１人と他大学から移籍した選手１人計２人の入部があり、部員は全部で６人。昨年に比べると、格段にレベルが上がった状態で今シーズンをスタート。通常の学内での部活動に加えて、他大学との対抗戦も昨年より積極的に増やして経験を積んだ。また、千葉県白子町での合宿等でも、例年より日数を増やして追い込みをかけてリーグ戦に臨んだ。

リーグ戦予選では創価大学・流通経済大学を下し、本戦進出。本戦１回戦では、今年４部昇格と見ていた学習院大学と対戦。学習院大学に勝利すれば４部昇格が見込めるという、今年一番の山場の試合に意気込んで臨んだ。しかし１勝６敗と完敗。部員たちはかなり辛い思いをしたようだが、残りの順位決定戦では東京理科大学・武蔵大学に勝利し、総合９位という成績で終えることが出来た。

リーグ戦にはＯＢ・ＯＧの方たちをはじめ、ご父母の皆さまや男子部員も応援に駆けつけていただき、誠に感謝したい。今年のリーグ戦では、技術面で向上したという手応えがあり、特にダブルスの戦い方には、かなりレベルアップが見られた。ただシングルスでのもつれた展開で、全体的に体力不足が否めない試合が多かったように思う。テニスだけではない何かが足りなかったことに、部員たちは気づいたはずで、いろんな意味で良い経験になったはずだ。

今年は３年生、２年生、１年生の構成なので、来年も今の部員たちが引き続きリーグ戦に臨む形になるため、大きなメリットになると思われる。今年の経験を糧に、部員各自が目標を持って来年に向けた練習に励んでいる。来年こそは４部昇格を目指し、頑張っていきたいと思っている。

（監督　畠中君代）

CONTENTS 13

CLUB

サッカー部

1988年に本学サッカー部が発足し、2007年に明海大学体育会が発足してから11年目を迎え、本学サッカー部創部以来の悲願である「関東大学サッカーリーグ２部昇格」を目指して闘った今シーズンであったが、首位と勝点６差の５位という成績に終わり、残念ながら関東大学サッカーリーグ２部昇格はおろか、千葉県大学サッカーリーグを奪還することすらかなわなかった。

毎年期待してくださっているOB・OGの皆さまや本学関係者の皆さまには、残念なご報告となってしまい、大変申し訳なく思っている。

また、私自身としても、監督就任９年目にして過去最低の成績で、不徳の致すところであり、OBの一人としても責任の重みを感じている。

来年こそは、千葉県大学サッカーリーグを奪還し、創部以来の悲願である「関東大学サッカーリーグ２部」昇格を達成できるよう、不惜身命、この責務を果たしていく所存である。　（監督　八津川義廣）

秋期リーグ最終戦　終了後のTOPチーム

CONTENTS 14

TOPICS

サマーキャンプ

在学生・教職員合同で活発な議論

9月11・12日の2日間、山梨県笛吹市の石和温泉で浦安キャンパス学友会サマーキャンプが実施された。これは日本人学生、外国人留学生、教職員等が互いの連帯感と本学への帰属意識を高め、ともに本学を発展させることを目的に毎年実施されているもので、学生・教職員ら約160人が参加した。今年は「交流・理解・発展」をメインテーマに、1日目に分科会、2日目に報告会が行われた。

分科会では、「課外活動の活性化について」「学内交流について」「地域との関わりについて」「明海大学の魅力について」の4つのテーマを設定し、少人数グループに分かれ、本学をより良いものにするための率直な意見交換が行われた。どのグループも初めこそ緊張した様子が見られたものの、次第に打ち解け活発な議論が交わされた。翌日の報告会ではテーマ別に発表が行われ、各班で考えたテーマに基づく企画が提案された。閉会式の最後には、今年度からの取り組みとして参加者全員で学歌を斉唱した。

参加した学生からは、「普段交流の少ない外国人留学生や他学科の学生と新たな繋がりを持つことができた」「改めて大学と向き合い、考えられる有意義な機会だった」「とても楽しい時間を過ごすことができたので、また来年も参加したい」といった感想が聞かれ、どの学生も充実した2日間を過ごした様子がうかがえた。

活発な議論が交わされた分科会

CONTENTS 16

REPORT

2017年度代議員会

5月13日、浦安キャンパスにおいて、2017年度同窓会代議員会が開催され、代議員38人と教職員14人が出席した。北原淳同窓会会長と安井利一学長の挨拶の後、同窓会の事業報告や決算報告、新役員の選出、新年度事業計画、予算案などが審議、承認された。2017年度会長には、引続き北原会長が再任された。また、今年度は長期事業計画として「ブランディングサポートプロジェクト」が発表され、同窓会本会・支部が一丸となり事業を進めていくことを確認した。

CONTENTS 17

CLUB

陸上競技部

CONTENTS 15

CLUB

空手道部

空手道部は、同窓会の皆さまをはじめ、教育後援会及び大学のご支援のもとで、体育会に所属して11年目を迎える。

今年度は男子主将の森龍斗選手（経済学科4年）を中心とし、昨年度の成績を上回ることを目指し、総勢34人（男子部員26人・女子部員8人）が精神面・技術面等の強化を図り、日夜稽古に励んで来た。

主な成績としては、第28回関東学生空手道体重別選手権大会において、男子個人組手60kg級で優勝した森選手（経済学科4年）、同級3位の大塚虹希選手（経済学科3年）と、山田隆樹選手（経済学科3年）、男子個人組手84kg超級3位の竹下誠選手（経済学科3年）と、優秀な成績を収めることができた。しかし、団体戦は昨年度の結果を上回ることができず、大変悔しい結果となった。

今年度は個人戦での活躍が目立ったが、チームの雰囲気は年々良くなってきている。次年度に向け新チーム体制となり、より一層チーム力の向上と精神面・体力面、技術面等を強化し、個人戦・団体戦ともに今まで以上に良い成績を残せるよう精進するので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（監督　上田　航）

明海大学陸上競技部の2017年度の活動について、以下報告する。まず、陸上競技部は、今年度から体育会に加入となった。

ちなみに陸上競技の大学三大大会と言われているのが、5月の関東インカレ、6月の日本学生個人、9月の日本インカレで、これらの大会に出場するためには標準記録の突破が条件となる（関東インカレは関東30位、日本学生個人・日本インカレは全国30位相当の記録）。そのため、まずは関東インカレ、そして日本学生個人・日本インカレの標準記録を突破して、さらに入賞・優勝することを目標に活動している。

今年度、関東インカレでは男子個人で3人、リレー1種目、女子個人4人、リレー1種目で出場し、男子走幅跳で8位、女子400mで5位に入賞した。前年度は男子リレーで入賞していたが、今回は残念ながらバトンミスが響き決勝に進出できなかった。

日本学生個人では女子3人が出場、日本インカレでは女子2人が出場。全国大会では決勝に進出できず悔しい思いをしたが、来年は決勝で戦うために何が必要かを、監督と選手が共に確認ができたのでいい経験になった。

体育会会長をはじめ大学関係者の皆さま、陸上競技部OB・OG会の皆さまのご声援に応えられる様に、これからも頑張っていくので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。（監督　川幡　俊行）

CONTENTS 18

CLUB

ヨット部

【今年一年を振り返って】

３月の稲毛ヨットハーバーでの強化合宿から始まり、４月の春季学生ヨット選手権大会までの期間をどうするかが毎年の課題であったが、早くから目標を設定し、部員の取り組む姿勢が変わってきた。本学は、女子のレベルが高く、レギュラー選手も女子主力で編成することとなった。春の女子大会を皮切りに、女子の活躍により本学ヨット部は伝統校にプレッシャーをかけ、その間に男子チームの底上げを図らなければならないのが現状である。そうした流れの中で女子は関東の中では伝統校と競い合い、関東制覇まであと一歩のところまできている。

例年のことではあるが、４月から６月にかけて開催される大会ついては、今年も素晴らしい結果を残しているが、後半戦にややつまずくレースがみられる。それでも、全日本学生女子レースをはじめ全日本インカレ出場権を獲得するなど関東では伝統校と並ぶまでに至っている。今年も勢いをつけて全日本に臨んだが、予想外の天候に翻弄され、厳しい戦いを強いられた。毎年、全日本インカレへ駒を進めることになると遠征経費が足りない状況が続き、今年も、同窓会の多大な援助をいただき大会参加ができた。いつもながら感謝以外に言葉はない。

インカレが終わり次のシーズンが始まる。新たな目標を設定し、何としても総合優勝を果たしたい。選手ともども頑張る所存であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。　　（監督　國府田由隆）

【主な成績】

４月	関東学生春季選手権女子レース　総合２位（470級３位、スナイプ級２位）
５月	春季関東学生ヨット選手権大会　総合５位（470級３位、スナイプ級６位）
６月	関東学生個人選手権大会全日本個人選手権予選（470級優勝）
８月	全日本470級選手権大会出場
	470級世界ジュニア選手権大会出場（本学は４年連続出場）
９月	関東学生ヨット選手権大会女子選手権兼全日本女子学生ヨット選手権予選
	総合３位（470級４位、６位、８位、スナイプ級２位）、全日本学生女子ヨット選手権大会　総合２位（470級２位、スナイプ級２位）
10月	関東学生ヨット秋季選手権大会　総合５位（470級５位、スナイプ級５位）
11月	全日本学生ヨット選手権大会　総合７位（470級６位、スナイプ級13位）

CONTENTS 19

INFORMATION

■ ビジネス交流会開催予定

同窓生の輪を人的資源として有効に活用・共有し、ビジネスにおける問題解決や自己の向上を目的とした実践的交流会です。同窓生皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

ビジネス交流会

日時：2018年3月上旬頃を予定
（※詳細は同窓会Facebookならび@LINEにて追って告知致しますのでご確認ください）
場所：渋谷　　参加費：￥2,000円　＊学生無料
対象：会社経営者、個人事業主及び起業を目指している同窓生。
同窓生同士のビジネス的な繋がりを求めている方。
就活のためのスキルアップを目指す学生。

■お申込み方法

表題に「ビジネス交流会参加希望」と記し、「氏名」「学籍番号」「携帯番号」「業種・会社名」を明記し、info@meikai.com までお申込みください。
＊日時、場所の詳細は、明海大学浦安キャンパス同窓会ＨＰやビジネス交流会ＦＢでご確認ください。

詳細・最新情報はこちらから

明海大学浦安キャンパス ビジネス交流会　公式Facebook
https://www.facebook.com/Meikai.dosokai.Business

■ ビジネスセミナーのお知らせ

～緑風塾からセミナー開催のお知らせを致します

開催日時：2018年２月23日（金）　18時30分～19時30分　18時から開場
開催場所：東京国際フォーラム ガラス棟会議室 ５階G505 千代田区丸の内3−5−1
寄付金：500円
講師：不動産証券化マスター　後藤　智（明海大学不動産学部卒業）

■申込方法

以下のメールアドレスに、締切日内に必須事項を記入のうえご送信下さい。
メール：ryokufu.juku@gmail.com　　締切日：2018年１月31日
必須事項：①氏名　②住所　③メールアドレス ④電話番号　⑤勤務先名
⑥学籍番号（学部）
留意事項：キャンセルの場合は３日前までにメールを下さい。 座席に限りがありますので、ご希望をお受けできない場合があります。

●緑風塾の紹介　緑風塾は、不動産学部の同窓会である緑風会の下部組織になります。不動産学部卒業生の約5,500人の皆さまと「経営、税金、不動産売買、建築、証券化、M&A」等の勉強会を通じて繋がりを強くしていく所存です。ご賛同頂ける方は是非緑風塾の会員希望の旨のメールを上述のメール宛先までご連絡頂けたら幸甚です。

■「コミュニティサポート事業」～同窓生の集まりに最大６万円の支援

詳細は同窓会HPをご参照ください。

■ ヨット五輪候補チーム 愛称募集

明海大学から東京五輪出場を狙う林優季／西代周選手のチーム愛称を募集します。より身近に、より誇らしく思えるような、愛称・名称のご応募お待ちしています。下記を参照の上、info@meikai.comまでご応募ください。

■募集要項

募集内容：東京五輪を狙う明海大学所属（職員）・ヨット470級女子強化選手のチーム愛称・名称
募集期間：2018年１月１日（月）～２月28日（水）
応募資格：明海大学同窓会員
決定方法：応募いただいた名称案について、選考委員会で選考し、決定させていただきます。決定名称は、同窓会HP等で発表させていただきます。

■応募必要事項

①氏名・郵便番号・住所・電話番号・学籍番号
②明海大学所属ヨット五輪候補チームの愛称・名称　１人／１案
③愛称・名称の「背景」や「思い」、「説明」等、ご記入ください

編集／発行　明海大学浦安キャンパス同窓会　279-8550 千葉県浦安市明海１
tel:047-355-5112　fax:047-355-2871
mail:info@meikai.com
http://www.meikai.com

お引越やご結婚などで、氏名・住所に変更がある場合は必ずご連絡ください。